

研究要旨

テーマ：トークンと「SOAP」記述を用いた自尊感情と社会的スキルの涵養

対象学年：小学校 1 年

教科科目：

使用した教材

Q16 学齢期の ADHD の特徴について教えてください

Q17 学童期の ADHD の支援について教えてください

(Q12 保育士や幼稚園教諭の子どものへの対応において気をつけるべきことは何ですか)

Q18 児童期において、家庭や学校で特に注意すべきことは何ですか。

問題と目的・授業案のポイント

本研究では、小学校 1 年生の教室において、子どもたちが自分のペースで学びながら、他者と影響し合って次の学びを生み出していく自由な学習環境の中で、学びにくさを感じている ADHD の子どもが、他者との相互作用の中で社会的スキルや自尊感情を育てていくための教師の関わりについて考察する。

その手立てとして、トークンエコノミー法と SOAP 記述を併用することで、個別具体的な対応として語られる特別支援の手立てを学級の文化形成と関連させ、集団の中で個を育てるための教師の関わりについて明らかにしていく。

実践結果と考察

SOAP 記述の S（主観的記述）に当たる部分を、子どもと教師の対話の中で導き出していくことで、その子が今何に心理的なハードルを感じているのか、何に対して達成感を感じているのかを、その子自身が自覚化するだけでなく、教師がその子の“今”を質的に捉えていくことになる。

ADHD の子どもは、行為が場の環境的な要因に大きく左右されるため、めあて意識を継続していくことは難しい。しかし、今日の出来事の中で頑張れたとを大人に認めてもらうという“出来事”が連続していくことで、他者の期待に応えるという関係性の中で行動の自覚が生まれていく。

課題として、時間設定の難しさが挙げられる。また、SOAP 記述の単位として 1 ケースについて 2000 字（A4 用紙 1 ページ）を超えて記述していくことは、教員の日常業務として負担感が大きい。実践的な記述の仕方については、改善が必要である。

大学や他校園との接続や連携に関する示唆

本実践の記述は、「その日 1 日」を単位としているため、複数の問題点が混在する形になっている。この点については、同じ日の出来事をもとにしていても、カードなどを用いて記述を分けて集積していくことで、問題とそれに対する対応を明確にしていくことが考えられる。それによって、その子に関わる複数の大人がその子の変化と成長を、そして次の手立てを共有することが可能になる。

今後の展開の可能性

その子との対話によって形成された間主観的な現状理解をもとに Assessment し、それを次のプランにつなげていくという本実践の基本的な枠組みは、どの教室でも実践可能な手立てだと考えられる。